

車で走行中に地震を感じたら、ゆっくりと減速し、慌てずに左側路肩に停車して、エンジンを止めましょう。決して急ブレーキをかけないでください。

171は大規模な災害が発生した時、電話で音声により伝言を登録することでお互いに安否の確認をするための電話番号です。携帯電話などで171に電話し、自宅の電話番号などを入力してメッセージを登録します。登録する電話番号は事前に家族で決めておきましょう。毎月1日は「171」の練習ができます。家族みんなで練習しておきましょう。

地震が発生すると倒壊した建物などで避難所までの道が通れないことがあります。自宅から避難場所に向かう経路を2～3コース準備し、普段から危険個所がないかを確認しておきましょう。チェックポイントは、①道幅、②古い建物、③ブロック塀、④ガラス張りの建物、⑤大きな看板などです。

阪神淡路大震災では、全体の約6割の部屋で家具が転倒し、部屋全体に散乱しました。倒れるだけでなく、食器棚などは扉が開いて中の食器が散乱、テレビや電子レンジが飛びました。建物が無事でも、家具が転倒するとその下敷きになってケガをしたり、死亡することもあります。事前に家具を固定して身の安全を図りましょう。

地震を感じたら、すぐに海岸から離れ、安全な場所に避難しましょう。弱い地震でも、大きな津波が発生する場合があります。油断してはいけません。津波は最初の波が最大とは限りません。何度も繰り返し大きな波が襲ってきます。水位が下がったように見えても、警報や注意報が解除されるまで、安全な場所にとどまりましょう。

液状化とは、地震の際に地下水位の高い砂地盤が振動により液体状になる現象です。比重の大きい構造物が埋もれ、倒れたり、地中にある下水管などの比重の小さい構造物が浮き上がったります。自分の住んでいる場所が液状化が発生する危険があるか、ハザードマップで事前に確認しましょう。

地震の揺れが収まったら出火の有無を確認します。全ての家電製品は火災を引き起こす原因になります。停電の場合は電気が復旧した直後が怖いのです。そのため地震で停電になった時には、自分自身の安全を確保しながらブレーカーを切りましょう。

地震が起こるとパニックになって、どのような行動をすべきか判断できなくなります。そのため、防災訓練で緊急時の行動を身に付けることが大切です。訓練を何回も繰り返して行うことで身に付いていきます。

災害時には、道路や鉄道などの公共交通機関の通行不能が生じ、外出先から自宅への帰宅が困難となります。帰宅困難者を想定して都道府県・市町村では共施設や駅、地下街をはじめ、駅周辺の民間企業などに一時避難のスペースを確保しています。自分の外出先で地震が発生した時、どのようにすべきか、事前に考え、調査し、訓練しておきましょう。

まずは安全確保、次に火の始末。使用中のガス器具、ストーブは、すばやく火を消しましょう。ガス器具は元栓を締め、電気器具は電源プラグを抜きましょう。避難する場合は、ブレーカーを切ってからにしましょう。万一出火したら、消火器や三角バケツなどの消火用具でボヤのうちに消し止めましょう。大声で隣近所に声をかけ、みんなで協力して初期消火に努めましょう。

災害が発生してから初めて自分に必要な物を知るのでは遅いのです。薬がない、マスクがない、おむつがない、などとならないように、日常で使用しているものを家族みんなで備蓄しておきましょう。

大きな地震が起こると津波が発生します。海に近い場所では、津波による被害が大きくなります。大きな揺れが収まったら、みんなで声をかけ合いながら高台に避難しましょう。

どこかで地震が発生すると、その時は危機感をもって色々な準備をしますが、1年・2年と平和な年月が流れると、防災意識が低下していきます。災害はいつ発生するかわかりません。常に防災意識を持って、準備しておきましょう。

高齢者や身体に障害を持たれている方は、災害時の避難がとても困難です。自分の町内に援助すべき方がいるのかを把握し、いざというときみんなで協力して援助することが大切です。

自分が住んでいる地域が、地震発生時にどのような災害が発生するのかを事前に知っておくことが大切です。津波の影響があるのか、液状化が発生するのか、土砂災害が起こるのか、ハザードマップで確認しておきましょう。

大きな地震が起こると津波が発生したり、多くの余震が起こります。揺れが収まったと思って安心してはいけません。「余震がくるよ」「津波がくるよ」と声を掛けながら、みんなで大急ぎで避難所へ逃げましょう。

古い建物は、地震で壊れないように耐震補強することが大切です。耐震とは揺れに対して耐えることで、筋交いやブレースと呼ばれる斜めの材料を用いて建物が変形しようとするのを防ぎます。耐震補強をして建物の倒壊を防止しましょう。

1981年に新耐震基準ができましたので、それ以前に作られた家屋は、大きな地震により倒壊する危険性があります。古い家屋は耐震性能を調査して、耐震補強することが大切です。

南海トラフ巨大地震は、南海トラフを震源とする地震で100年から200年に1回の周期で発生しています。1946年に昭和南海地震が発生してから約70年が経過していますので、南海トラフ巨大地震が今後30年以内に発生する確率は70%といわれています。いつ来てもおかしくない巨大地震です。日頃からの防災準備が大切です。

寝てるときに大きな地震が来たらどうしますか。家具は倒れてきませんか？電灯は落下してきませんか？木造の1階は倒壊しませんか？自分の寝ている場所を点検し、安全を確保しておきましょう。

災害が発生してガス・水道・電気、道路などが復旧するまで少なくとも3日は自分で生き抜く必要があります。食べ物や飲料水がすぐに配給される保証はありません。少なくとも3日分の非常食・飲料水は、みんなで備蓄しておきましょう。

自分自身の安全を確保できれば、近隣の方々の安全確認や火元・初期消火の必要性など、お互いに声かけ合って助け合いましょう。

避難所生活は短くても1週間以上、長い場合は数カ月にもなります。その期間中には雨が降ります。雨具などの備えも忘れないようにしましょう。また、季節によっては防寒対策も必要になります。

ハザードマップとは、自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したものです。自分が住んでいる地域の被害の被害程度、避難経路、避難場所などの情報が地図上に図示されています。事前に危険場所を見つけて、安全対策をしましょう。

地震が収まって安全確認できた後は、壊れた家の片付けや、避難者のお世話など、多くの人が必要になります。「自分たちの地域は自分たちで守る」ことが大切です。みんなでボランティアとしてお手伝いしましょう。

避難所に避難する際は、玄関に行先を明示しておきましょう。171などの災害ダイヤルと合わせて、色々な手段で情報伝達することが大切です。

地震が発生すると、ガス・水道・電気が止まり、道路も使用できなくなります。飲み水や食材などの物資はすぐには届きません。地震発生後少なくとも3日間は自分で水・食料を確保する必要があります。非常食や飲料水は必ず備蓄しましょう。

自分自身の安全を確保することは最優先ですが、次に家族の安否を確認する必要があります。171の災害ダイヤルの利用、玄関への張り紙などを行うことはもちろん、事前に地震が発生した場合の連絡方法について家族で確認しておきましょう。

大きな地震が発生すると、ブロック塀や古い家屋が倒壊して、通行時に下敷きになってしまいます。できるだけ広い場所、上から物が落ちてこない場所に避難しましょう。

災害が発生すると、隣近所の方々と協力して人命救助や初期消火などを行う必要があります。自分の近所にどのような方が住んでいるのかを知り、日頃から「挨拶する」などのお付き合いをしていることで、緊急時にスムーズに協力し合えることとなります。

被災した人を救助することはとても大切なことですが、一人で救助活動をした場合、自分自身にトラブルがあった時、救助してもらうことができません。人命救助は必ず複数でおこなって下さい。

災害が発生すると電気・ガス・水道が止まります。飲み水はもちろん、水洗トイレも使えません。トイレに行かないよう水分をとらない人がいますが、病気になってしまいます。食事の確保はもちろんですがトイレの確保も大切です。

災害が発生した場合は、まずは自分自身の命を守ることが最優先です。その後、火災の防止対策、家族安否確認、人命救助など、自分ができるところを行きましょう。

木造2階建てで屋根が瓦の家が多いと思いますが、瓦が落ちてきたらケガをします。また屋根が重い建物は揺れも大きくなります。上からの落下物に注意しましょう。

非常食の消費期限は大丈夫ですか。種類や数量も確認しておきましょう。常備薬、おむつ、生理用品など、個人的な物資は配給されにくいので、自分で準備しておきましょう。特にアレルギーのお子さんの食材も備蓄が大切です。

大きな地震で古い木造家屋は倒壊する危険性があります。ガスや電気でも火災が発生します。見つけたら、消防署に119番通報するとともに大きな声で「火事だ」と言って、近所のみんなで初期消火しましょう。火災が広がると被害が大きくなってしまいます。

大きな災害が発生すると多くの方が避難所に来ます。最初は混乱しますので、みんなで落ち着いて協力しながら避難所の準備をしましょう。

大きな地震が発生した後は、多数の余震が起こります。最初の地震で建物が倒壊しない場合でも、次の余震で倒壊することもあります。地震が落ち着くまで避難所で待機することも大切です。

新しい高層マンションは耐震性能が高いので倒壊することはありませんが、上層階では揺れが大きく数メートルも揺れることがあります。そのため、家具が転倒したり、食器やテレビなどが飛び交ってケガをします。家具固定は確実にしておきましょう。

171は大規模な災害が発生した時、電話で音声により伝言を登録することでお互いに安否の確認をするための電話番号です。携帯電話などで171に電話し、自宅の電話番号などを入力してメッセージを登録します。登録する電話番号は事前に家族で決めておきましょう。毎月1日は「171」の練習ができます。家族みんなで練習しておきましょう。

人命救助、物資の配給、町内見守りなど、被災後の活動は沢山あります。事前に、「誰が・何をするのか」を決めておくことで、みんなが協力して活動することができます。

災害が発生する前から事前に備えて準備しておくことで、慌てることなく、落ち着いて対応することができます。特に、飲料水・非常食・薬など、必要な物資を準備しておくことで、緊急事態を乗り切ることができます。

防災活動は特別なことではありません。自分自身の命、家族の命を守るために、防災について家族で話し合い、非常食などの準備や避難場所の確認などをしておきましょう。

1981年に新耐震基準ができましたので、それより前に作られた家屋は大きな地震により倒壊する危険性があります。古い家屋は耐震性能を調査して、耐震補強することが大切です。